

2 ^{もくぞうやくしにょらいざぞう}木造薬師如来坐像 1 軀 [有形文化財（彫刻）]

^{つげたり}附 像内納入品

一、^{しほんぼくしよめいれきにねんしがつにじゅうろくにちがんもん}紙本墨書明暦二年四月廿六日願文 ^{ほうしそえ}包紙添 1 通

[所在地] 大和郡山市椎木町 445 番地

[所有者] 光堂寺

[法 量] 像高 89.2cm

[時 代] 平安時代（11 世紀）

[概 要]

大和郡山市椎木町に所在する光堂寺に本尊として伝わる等身大の薬師如来坐像。現在は県指定の木造四天王立像（平安時代中期）とともに本堂中央に祀られている。頭体幹部を桜とみられる広葉樹の一材より彫出し、体側部材を矧ぎ、脚部に一材を寄せる一木造の構造。右臂を屈して掌を前方に向け、左手は膝上で掌を上にして薬壺^{やっこ}をもつ。

頭体の均整がとれ、両膝の張った引き締まった体軀や太めで形式化した衣文の彫法に平安時代中期の特徴が認められる。特に、低くなだらかな肉髻や中央部を波形に表す髪際の形状、体幹部を円筒形に彫出して脚部材に接合する構造などは長和 2 年（1013）の興福寺薬師如来坐像（重文）に近く、同像をさほど下らぬ時期に造立されたと考えられる。和様彫刻の大成する時期の南都における造像の一端を伝える遺品として貴重である。

頭部には、明暦 2 年（1656）の修理記録が納入されている。

